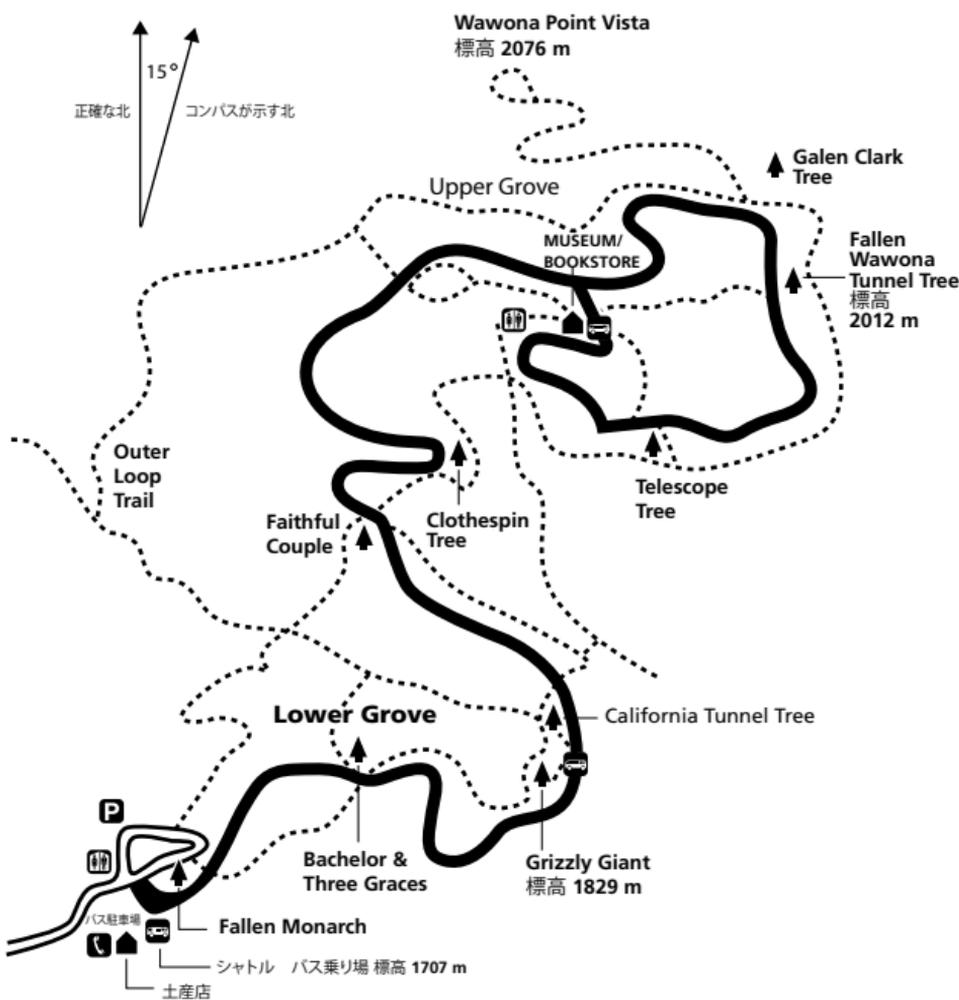
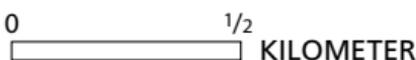


# 巨木セコイア（アメリカ杉）の林立するマリポサ樹林



## マイル目盛り



**P** 駐車場

== 道路

— シャトル バス (5月中旬から10月まで運行)

..... 遊歩道

🏠 建物・売店

🚌 シャトル バス 駐車場 ☎ 電話

🚻 トイレ

📌 パンフレットで紹介した樹木

この企画はジーンジェラード財団の援助によるものです。  
2006年リサイクル紙で印刷

このパンフレットは1986年5月に亡くなった国立公園森林警備隊員のジョン・ケーニー氏によって書かれたものです。ケーニー氏はこの巨木の素晴らしさを感じて、マリポサ樹林の中を散策する何千人もの観光客に、自分の思いを届けたいと感じていました。この樹林の静けさとか、この惑星に生きる私達すべての命についてとか、また、野生の神聖さなどについて、彼は話し続けています。写真は全てヨセミテ研究図書館の好意によるものです。

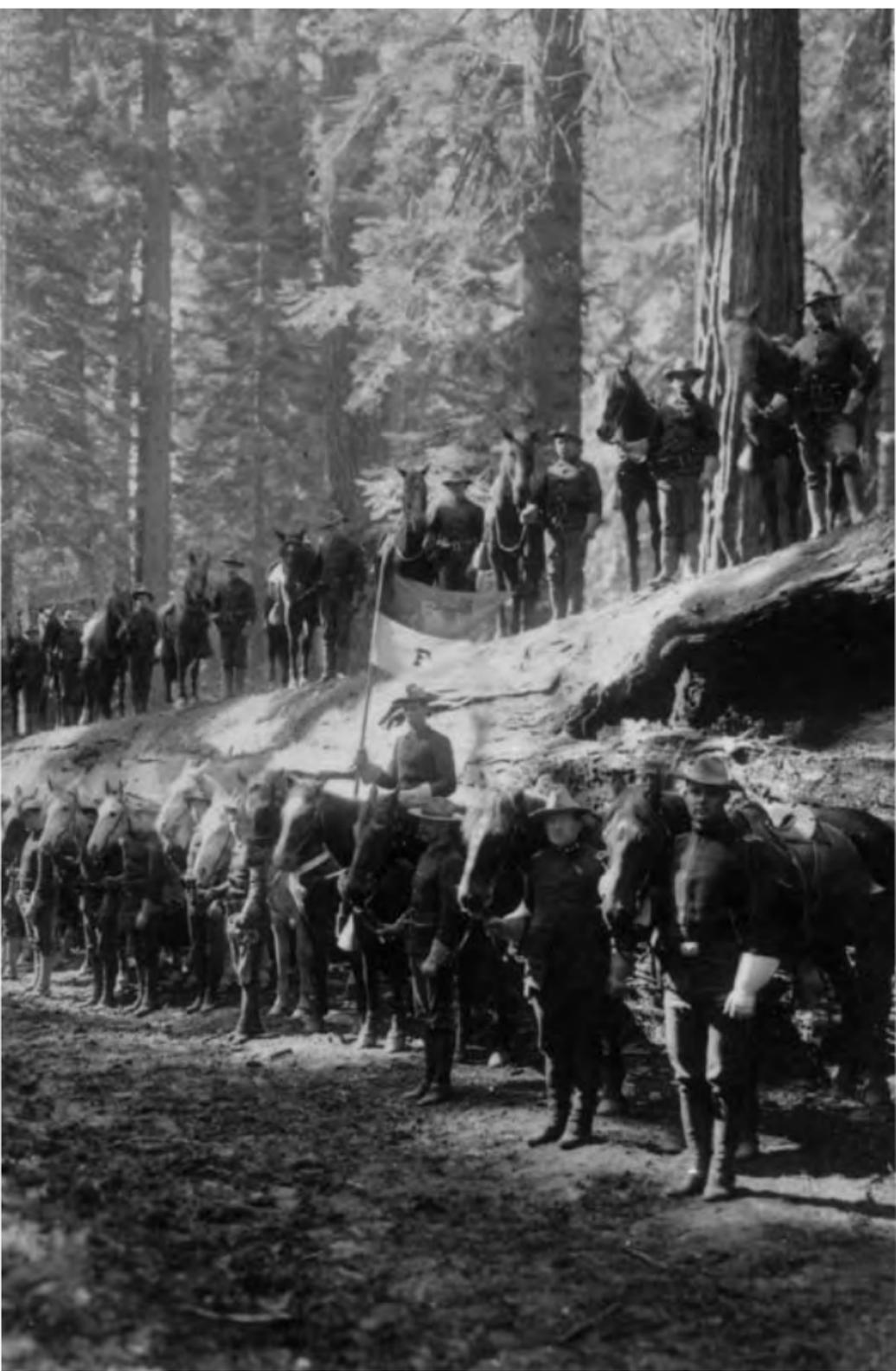


THE YOSEMITE FUND™  
Providing for Yosemite's Future

# 巨木セコイア（アメリカ杉）の林立する マリポサ樹林

ヨセミテ国立公園

50セント



巨木セコイアの林立するマリポサ樹林へようこそ。駐車場に生えている巨木に感動されたら、もっと先にある、さらに巨大な木々に目を奪われるでしょう。 .



# マリポサ樹林へようこそ

学名「セコイアデンドロン・ギガンテウム」と呼ばれる木は、生き長らえている最古の植物ではありません。一番古い巨木のセコイアは、推定樹齢3,000年を越えますが、「ピナス・アリスタ」と呼ばれる木は、古代の剛毛松かさの生きた標本で、樹齢4,600年以上です！

巨木セコイアは、現在生存している木で、一番高いわけではありません。同じ種類でカリフォルニアの海岸沿いに生えている、アメリカ杉、学名「セコイア・センツパーバイレンズ」は、115メートルほどの高さに成長します。この「シエラ・アメリカ杉」は高さ94メートルまで成長しますが、マリポサ樹林で一番高い木は、およそ88メートルです。

巨木セコイアは、基底直径が最大の木でもありません。メキシコにある、学名「タクソディウム・ムクラヌトゥム」と呼ばれるモンテズマ糸杉は、15メートルを越えます。一番大きな巨木セコイアでも、基底直径が12メートル少々です。

それでは、このような木は世界の人々から、どのように注目されているのでしょうか。一言で言えば、巨木セコイアの木の総容積は、私達が知る限り、植物の中では最大です。

本筋の道路に生えている樹林に沿ってスタートすると、右側に「フォーレン・モナーク」（表紙の写真）があります。生物学者はこの木は数世紀間もの間、倒れていると考えています。木の中のタンニン酸が菌類やバクテリアを抑制して、倒れたセコイアが腐食しないように歯止めをかけています。雨や雪解けで森からタンニン酸を溶解した時だけ、腐食し出します。皆様の安全とフォーレン・モナークの遺物を保護するために、どうか木に上ったりしないで下さい。

この木の根元を注意して見て下さい。セコイアの直根は深くはありません。その代わりに、水を吸収するのに、ほとんどの根は地下2メートル内の表面近くに張っています。一方、45メートル以上も広がっていて、太い幹を支えるのに、しっかりした基部となっているのです。

観光客が道路や遊歩道を歩くことで、土を踏み固め、表面の根を痛める原因となる、土壌圧縮を、最小限度に抑えることができます。フォーレン・モナークから上の道路の道筋には、まだ若木のセコイアが数多くあり、丸みをおびて、重なり合った芽鱗の形の葉で、独特な針葉樹の輪郭をしており、柔らかく、海綿状の樹皮なので、簡単に識別できます。不思議なことに、森の奥深くの方には若木のセコイアは、わずかしか生えていません。何故なのかおわかりでしょうか。

セコイアの種子が発芽するには、以下の3つの要素が必要となります。

- 1) 直射日光が少し当たること、
- 2) 適度な湿度
- 3) 露出した鉋物土壌

皮肉なことには、道路建設は森の地面を掘り起こすので、太陽

の光が森の地面に当たるようになり、道端は湿度が増し、道路沿いには、露出した鉱物土壌をもたらし、完璧な発芽土壌を作り出します。

では、なぜ若木のセコイアが、道路からそんなに離れた場所に、まばらに生えているのでしょうか。この木が発見されてすぐ、木を保護しようとする活動が起こり、人々は自然火災発生の抑制に乗り出しました。日陰でも育つ木は、すぐ森林の地面に広がり、太陽の光を遮断し、水分を吸収し、松葉や落ちた松葉、松かさなどが、鉱物土壌を一面に覆い尽くしてしまいます。すると、セコイアの木が発芽出来ないようになってしまうのです。

雷は火災を引き起こし、他の常緑樹との生存競争を減少させ、地面の葉や松葉、松かさなどを焼き尽くして、鉱物土壌の上に栄養豊富な灰の薄い層を積もらせます。さらに、火災による熱が、成長したセコイアの緑の松かさを乾燥させて、でき上がった苗床に、新しい種子をたくさん落とすのにも役立ちます。冬になると、雪が一面にマリポサ樹林を覆い尽くします。春には、降り積もった雪が溶けて、太陽の光が降り注ぎ、湿度、新鮮な種子、灰など、混合した鉱物土壌が作られ、最良のセコイアの苗床ができ上がります。

セコイアの生殖作用にとって重要な、自然火災への依存は1960年代初期頃まで知られていませんでした。1960年までの100年間分の木々から落ちた葉、松かさ、松葉などや若木の常緑樹が生い茂り、大量の燃料が作りあげられました。このような不自然な状態のもとで、雷が発生すると、巨木を枯らしてしまう激しい樹冠火災が起こります。この異常な燃料蓄積を減らし、巨木セコイアの生殖作用を促進させるのに、ナショナル・パーク・サービスは「一連の規定した火災」を始めました。それは、森林警備隊員達が、春と秋の期間だけ行い、注意深く監視し、慎重に火をつけます。森林がさらに自然の状態になったら、この様な管理された火災は多分続かないでしょう。雷が原因の自然火災発生が7年から20年周期で起きます。

バチュラー と スリー・グレースでは、卵形のセコイアの松かさがよく見つかります。成長した巨木セコイアの上の方には、常に数千もの緑の松かさの実がなります。それぞれの松かさには、およそ200ほどの小さく平らな種子が含まれていて、およそ長さ1センチで、魚の鱗に似ています。雌の松かさは枝の上の方にできます。巨木セコイアが再生殖するには、風に頼らなくてはなりません。1本の木の下の方の枝から、他の木の上の枝へと花粉を運んでくれる遅い冬の嵐が、種子の受粉に役立ち、健全な生殖作用に不可欠な遺伝子混合が行われます。

松かさを見つけても、他の観光客やリス達が楽しむのに、どうかそのままにしておいて下さい。

## 巨木セコイア（アメリカ杉）の林立するマリポサ樹林



GRIZZLY GIANT

---

「グリズリー・ジャイアント」は、マリポサ樹林の中でも一番大きな木で、推定樹齢1,800年と見なされています。根元に近づいて見上げてみて下さい。南側の巨大な大枝は直径約2メートルもあり、ここの樹林に生えている、他のセコイアの木の本の幹の直径よりも大きいものです！

グリズリー・ジャイアントからおよそ45メートル向こうには、「カリフォルニア・トンネル」の木があり、馬車で通過できるように、1895年にこの木に穴が開けられました。この樹林にある2本の木がトンネルのように穴を開けられ、1本だけが今だに残って立っているのを、ほとんどの観光客は知らないと思います。下りて行って、木を通り抜けて散策してみてください！

時々大きなセコイアの木が、マリポサ樹林の中腹付近の乾燥した斜面に沿って生えています。グリズリー・ジャイアントから800メートル登った所は、さらに湿度が多い土壌の場所で、「誠実な夫婦」の意味である、「フェイスフル・カップル」と呼ばれる木があります。

この大きな2本の木は、根元が互いにくっついていますが、上の方は、はっきりと離れています。道路の反対側には、今から500年後には「誠実な夫婦」として、成長するであろうと思われる、小さな木が2本あります。



## CLOTHESPIN TREE

遊歩道に沿ってさらに400メートル先には、「洗濯ばさみの木」と呼ばれる「クロスピン・ツリー」の木があります。頻繁に起きた火災が、車の幅よりも広い自然のトンネルをくり抜きました。ここの大きさは見当がつかないので、そこに行って、入り口に立てば分かると思います。

スペイン人は西側の山の麓で観察できる数多くの蝶にちなんで、この地域を「マリポサ」と名付けました。一番完璧な形をしているセコイアは、「マリポサ・ツリー」で、郡の名前から取ったものです。この素晴らしい木の根元近くにできた、火災による傷は、ほとんど完全に治っているのがおわかりでしょうか。

さらに400メートル先には、マリポサ樹林博物館があります。この素敵な博物館は、1864年にゲーラン・クラーク氏が小さな小屋を建てた所に、建て替えられたものです。館内には巨木セコイアの生態学と歴史が展示されており、雑誌や絵はがきなども販売されています。

道路や決められた遊歩道を歩けば、マリポサ樹林が保護され、巨木セコイアも保護出来ます。



GALEN CLARK

博物館からさらに800メートル直進すると、マリポサ樹林の頂上に着きます。目前には、セコイアの木を保護するのに力を注いだ人の名前にちなんだ「ゲーラン・クラーク・ツリー」の木が立っています。前方は見通しの良い渓谷で、クラーク氏は1857年にこの樹林に最初に足を踏み入れた人なのです。クラーク氏はとても感動し、ここを訪れる観光客に、この素晴らしい樹林のガイドをしたり、保護を推し進めるなどをして、余生を送りました。

1864年に、エイブラハム・リンカーンは、マリポサ樹林とヨセミテ渓谷を「公共の使用地、リゾート地、娯楽地」として州の政府指定保留地として保護しようと、南北戦争中に立ち寄りました。1890年にヨセミテ国立公園が設立された当時はクラーク氏は生存しており、1906年にはヨセミテ公園の中にマリポサ樹林も加えられました。ジョン・ミューアとゲーラン・クラークは、共にヨセミテの保存に貢献し、生きた記念として、この美しい木に彼の名前が付けられました。

左の方には、400メートル先のワウオナ地点に簡単に行ける道路があり、西側と北側の素晴らしい景観は、ピクニックをして昼食を食べるのに最高の場所です。

この素晴らしい森林を保存するのに、松かさを見つけても、そのままにしておくように、お願いします。



WAWONA TUNNEL TREE

グレン・クラークの木から右に曲がると、多分世界的にも有名な、倒れた「ワウオナ・トンネル・ツリー」の木所に行けます。1881年にトンネルが作られてから、この木を通過した観光客は何百万人いるのでしょうか。1969年に、記録的な豪雪にみまわれ、この木はとうとう倒れてしまいました。根元に大きな穴が開けられたので、木は弱まり、おそらく1,000年早まって、倒れてしまったのでしょうか。しかしながらこの物静かな、巨木の話や写真は、世界中を駆け巡り、他の木の保存に間違いなく貢献しています。

上の樹林環線道路に沿って曲がると、「望遠鏡の木」と呼ばれる「テレスコープ・ツリー」の木が見えます。目を閉じて中を歩いてみて下さい。目は閉じたままで、そりかえって、ゆっくりと目を開けて見上げて下さい。信じられないでしょう！この驚異的な木は今もって生きており、発芽し、育つ種子を作っています。セコイアの木は火災、病気、害虫などに耐久性があるため、朽ち果てるまで何世紀も生きられるのです。この望遠鏡の木は、その耐久性について注目に値する一例です。

賢者は、「文明は何を残すかによって計られる」と述べています。イエローストーンは1872年に最初に指定された国立公園となりましたが、自然の宝を保存する考えは、少なくともそれより8年前にこの樹林で芽生えたものです。アメリカ人の国立公園と言う考え方は、人類の精神的な豊かさに注目し、貢献することでしょう。

このパンフレットをたたんで、ゆっくり戻って、この特別な場所を感じてみて下さい。